

# 横芝の碑 (その十四)

## 坂田城家老職の墓石

多古県道沿の坂田池を左に見ながら一キロメートル程進みますと左手に水資源開発公団の事務所が坂田城趾の堅崖を背景にして建っています。

公団の手前の一帯、城趾の崖下から県道までは、塔婆や墓石群が哀愁を漂わせています。この辺りは寺方と呼んでいますがその名の通り昔から光台寺、真珠院、円

光寺、靈通寺等と寺院が多く、中でも靈通寺は如意山神通寺とも称され、天文二年の縁起書によれば「往時、恭川勝内という者あり、勅を奉じて社格を正し、坂田城主

三谷、井田両氏の掃依深く、山武香取、印旛三郡に亘り未寺十四を数う」(山武郡地方誌より)とあり、昭和四十六年九月に房総半島を襲った二五号台風で倒壊する



までは往時をしのぶ様な高い床と広さを持った建物が残っていました。ここは役

場の予防注射や選挙の投票所等にも使われていました。その靈通寺の跡が墓石の原なのです。丁度公団事務所跡の堀際辺りが正面になっていた様に思います。

戦国の昔、築城にはまず飲料水の確保が第一の要件とされました。坂田城の家老職であった神保氏もまた用水確保には少なからず心を砕いたものと思われまふ。その墓石と隣り合わせに現代の水資源

確保企業団の事務所が建ったということは何か不思議な因縁めいたものを感じます。

大覚性大居士、天延元癸酉天七月十四日、俗名神保長門守泰宗(写真中央の相輪塔の様が一番高い墓石)等と刻まれ、また、外側の靈通寺歴代任職の墓石には、○乳権大僧都、法印自勝位、享保十四年己酉天、○如意山三十世、乳法印神快和尚位(向って左の拡大写真)等と刻まれています。

大覚性大居士、天延元癸酉天七月十四日、俗名神保長門守泰宗(写真中央の相輪塔の様が一番高い墓石)等と刻まれ、また、外側の靈通寺歴代任職の墓石には、○乳権大僧都、法印自勝位、享保十四年己酉天、○如意山三十世、乳法印神快和尚位(向って左の拡大写真)等と刻まれています。

(給食センター小沢所長寄稿)

